

交通インフラをつくり、ささえ、まもる 豊かな暮らしのために——

私たちは鉄道・運輸機構(JR TT)です

JR TTは2003年に日本鉄道建設公団と運輸施設整備事業団が
統合して設立された独立行政法人(中期目標管理法人)です。

明日を担う交通ネットワークづくりを通じて、

JR TTは、地域の人々が生き活きと幸せに暮らせる社会を実現するため、
これからも取組んでまいります。

JR TT
公式
ウェブサイト



■JRTTのあゆみ(沿革)



1971(昭46)
青函トンネル北海道側の斜坑掘削に着手



1973(昭48)
京葉線荒川放水路橋りよの建設



1974(昭49)
湖西線の開業(山科・近江塩津間) [1967着手]



1982(昭57)
上越新幹線の開業(大宮・新潟間) [1971着手]



1983(昭58)
青函トンネル先進導坑の貫通 [津軽海峡線 1988開業]



1989(平元)
北陸新幹線(高崎・軽井沢間)整備新幹線初の建設工事に着手 [1997 高崎・長野間開業]



2002(平14)
東京臨海高速鉄道りんかい線の全線開業 [1992着手]



2005(平17)
つくばエクスプレス(秋葉原・つくば間)の開業 [1994着手]



2010(平22)
東北新幹線(八戸・新青森間)の開業 [1998着手]



2015(平27)
北陸新幹線(長野・金沢間)の開業 [1998着手]



2016(平28)
北海道新幹線(新青森・新函館北斗間)の開業 [2005着手]



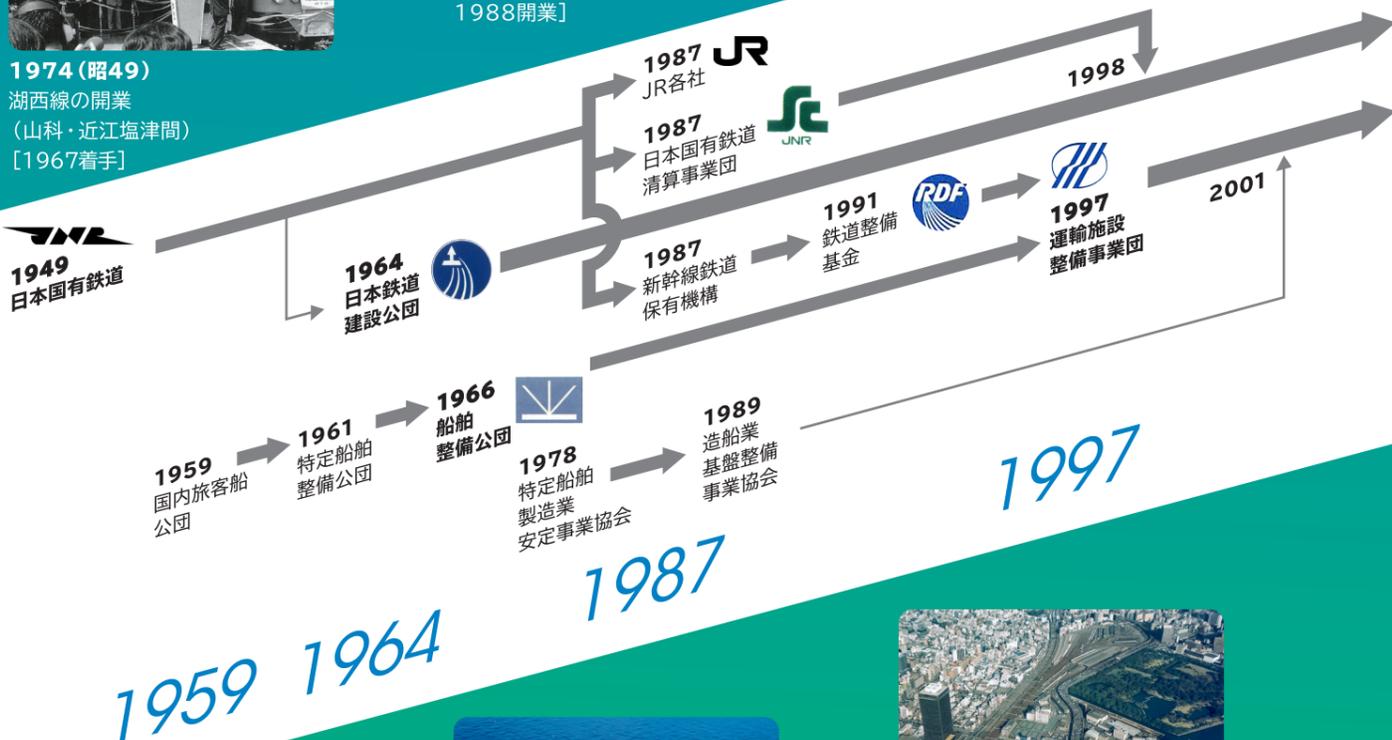
2022(令4)
西九州新幹線(武雄温泉・長崎間)の開業 [2008着手]



2023(令5)
神奈川東部方面線 相鉄・東急直通線の開業 [2012着手]



2024(令6)
北陸新幹線(金沢・敦賀間)の開業 [2012着手]



1959(昭34)
国内旅客船公団が設立 1船目「雄冬丸」



1975(昭50)
共有建造通算1000船目 「えめらんどおきなわ」



1987(昭62)
旧国鉄から承継した土地などの資産処分による汐留地区の街づくり



2003(平15)
名古屋市中心線(砂田橋~名古屋大学)の開業 JRTT設立後初の補助事業開業路線



2006(平18)
スーパーエコシップ1船目「みやじま丸」



2018(平30)
大型カーフェリー「さんふらわあ さつま」



2020(令2)
国内25年ぶりのジェットフォイル「セブンアイランド結」



2021~2025(令3~7)
北港テクノポート線整備に資金貸付け (OsakaMetro中央線コスモスクエア・夢洲間)



2003 2010 2020

人々の暮らしとともにあるJR TTの事業

つくる

▶ 7ページ

整備新幹線や都市鉄道、港と港を結ぶ船舶など、
地域をつなぐ交通ネットワークをつくっています。

整備新幹線

都市鉄道

船舶共有建造

ささえる

▶ 13ページ

鉄道事業者や内航海運事業者などを資金面・技術面で支援し、
交通インフラをささえています。

国際協力

地域鉄道

地域公共交通・物流

鉄道整備支援

JR経営自立支援

船舶技術支援

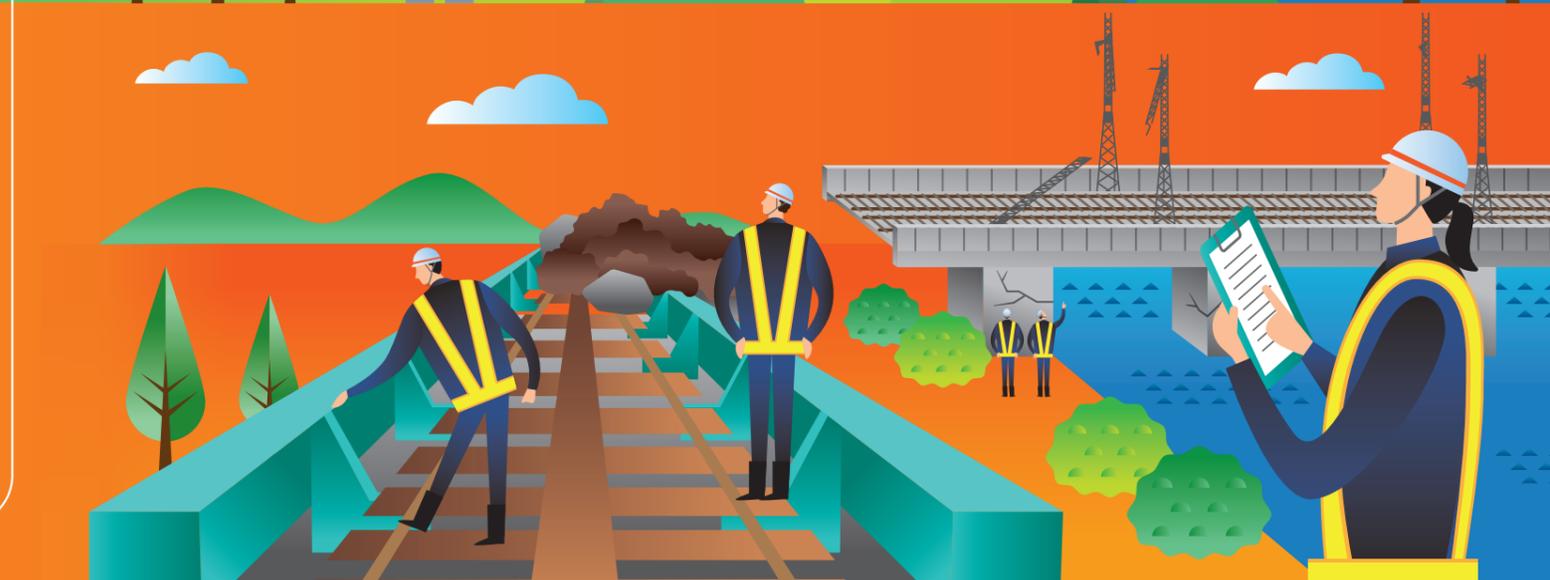
まもる

▶ 17ページ

技術力を活かした防災対策や災害復旧などを通じて、
地域の大切な交通インフラをまもっています。

地域鉄道

船舶技術支援





地域を結び、人々の暮らしに活力と豊かさをもたらす交通ネットワークづくりを使命としています。



人と人、地域と地域をつなぐ 交通ネットワークづくり

JRTTは、地域間を高速で安全に結ぶ整備新幹線の建設や、既存の鉄道インフラを活用して都市の魅力を高める都市鉄道利便増進事業による鉄道整備を行うほか、海上における旅客や貨物の輸送を担う内航海運事業者からのご相談・お申込みを受けて船舶を共同で建造します。



鉄道建設におけるJRTTの役割



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

— JRTTの「つくる」SDGs目標 —



総合技術力を活かした鉄道建設マネジメント

鉄道が完成するまでには、ルート選定のための調査、用地取得、鉄道構造物の設計・施工などに加え、関係機関との協議を行う必要があり、用地、土木、軌道、電気、建築、機械など多方面の総合的な技術力が要求されます。JR TTはこれらを一手に担っています。

鉄道建設に
関わる総合技術力



PROJECT 北陸新幹線 (金沢・敦賀間)



九頭竜川橋りょう

プロジェクト進行の流れ

- 2005 福井駅部土木工事着手
- 2012 金沢・敦賀間土木工事着手
- 2017~ 軌道、電気、建築、機械工事着手
- 2023 全線でレール設置が完了
- 2024 完成・開業後は、JR西日本に鉄道施設を貸付け



— 新幹線の建設 —
それはJR TTの
総力を結集し
長い歳月をかけて行う
国家的プロジェクト

地元から大きな期待を集めた北陸新幹線(金沢・敦賀間)は、関係者の皆様のご協力により2024年3月16日に開業いたしました。東京・敦賀間は最速3時間8分で結ばれ、従来よりも50分短縮されました。
新幹線の建設は、JR TTの知識と技術の総力を結集し、長い歳月をかけて行う国家的プロジェクトです。北陸新幹線が整備計画路線として決定され、建設の指示がされたのは半世紀前の1973年にまでさかのぼります。
その後、福井駅部に関する工事実施計画については、国土交通大臣の認可を受けて2005年に建設工事に着手し、

金沢・敦賀間に関しては、2012年に国土交通大臣の認可を受けて建設工事に着手しました。
JR TTは鉄道建設を進めるにあたって、用地、土木、軌道、電気、建築、機械という6つの専門領域がそれぞれに専門性を発揮しながらプロジェクトを進めつつ、全体の品質や工期などを総合的にマネジメントしています。沿線の皆様と関係機関の方々にご理解、ご協力を賜りながら、豊富な経験と確かな技術で一貫してプロジェクトを牽引し開業まで導くことが、JR TTの役割であり使命です。

COLUMN

**ICTによる
効率化の取組み**
鉄道施設の機能確認のため、ICTを活用して効率的な業務を日々進めています。



全国で展開する鉄道建設プロジェクト

新幹線建設の47%

1386km

全国の新幹線約2964kmのうち、JRTTは約47%を建設しており、新幹線建設に大きな役割をはたしています。

首都圏の新規路線の72%

86.9km

2004年以降に首都圏で開業した都市鉄道121.5km(10路線)のうち約72%(86.9km(6路線))をJRTTが建設しました。都市を訪れ、生活する人々の暮らしを豊かにしています。



※2025年3月末現在

PROJECT 01

【整備新幹線事業】
北陸新幹線
(金沢・敦賀間)



整備新幹線としては最大規模となる敦賀駅

北陸新幹線(金沢・敦賀間)は、路線延長約125kmであり、2012年6月に工事実施計画の認可を受け、2024年3月に開業しました。

雪害対策動画



PROJECT 02

【整備新幹線事業】
北海道新幹線
(新函館北斗・札幌間)



建設中の後志トンネル(天神工区)

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)は、路線延長約212kmであり、2012年6月に工事実施計画の認可を受けました。トンネル区間が約8割を占めるのが特徴で、完成に向けて工事を進めています。

現場動画



PROJECT 03

【都市鉄道利便増進事業】
神奈川東部方面線
(相鉄・東急直通線)



新横浜トンネルより新横浜駅を望む

神奈川東部方面線の相鉄・東急直通線は、相鉄線の羽沢横浜国大駅と東急東横線の日吉駅の間に連絡線を整備し、神奈川県中部および横浜市西部と東京都心部とのアクセス向上を図る事業で2023年3月に開業しました。

現場動画



内航海運事業者の パートナーとして船舶を建造

ふねづくりラプラス



海上における旅客や貨物の輸送を担う内航海運事業者からのご相談・お申込みを受けて、船舶を共同で建造します。船舶を建造するには、多額の資金を必要とするため、長期・低利な資金はもちろんのこと、船舶の技術面から専門的なアドバイスも併せて提供しています。



建造隻数合計

4169隻

旅客船

1081隻

全国総トン数のうち
約62%

貨物船

3088隻

全国総トン数のうち
約42%

※1)隻：2025年3月末現在
※2)%：2019年度～2023年度
5カ年(機構調べ)

COLUMN

内航カーボンニュートラルへの取り組み
バイオ燃料を用い、①共有船での試験航行②A重油と混合したものによる内航船エンジンの試験運転を実施し、実用性を確認。





ささえる

鉄道や船舶をはじめとする
内外の交通インフラへの支援を通じて、
経済社会の活性化に寄与しています。

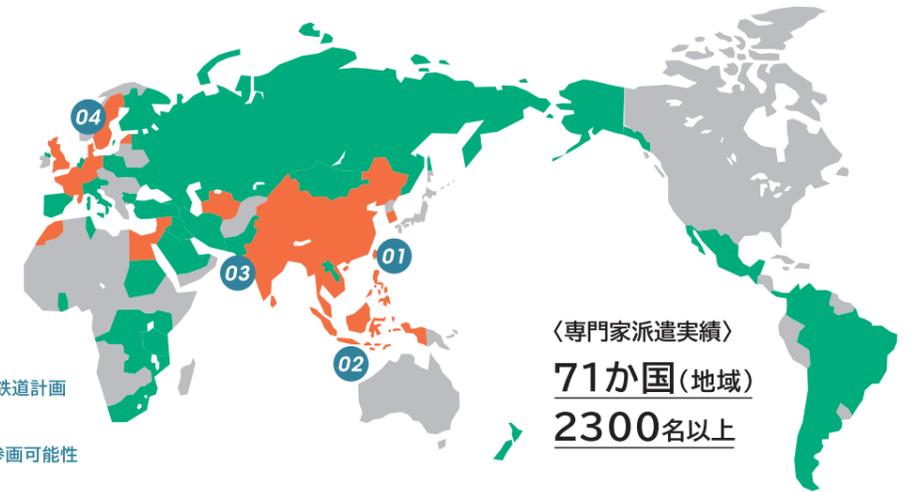


培った技術力で海外の鉄道の発展をささえる

- 2015年以降技術協力を
実施した国及び地域
- 2014年以前に技術協力を
実施した国及び地域

〈近年参画したプロジェクト〉

- 01 台湾
台湾高速鉄道延伸計画
- 02 インドネシア
ジャワ北幹線鉄道準高速化事業
- 03 インド
ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道計画
- 04 スウェーデン
交通インフラ整備計画本邦企業参画可能性



国際協力
新幹線システムを導入する
インド高速鉄道プロジェクトに協力
ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道プロジェクトでは、
新幹線システムが導入されます。JRTTは新幹線建設で
培った経験・知見を活用し、このプロジェクトに様々な
形で技術的支援を行っています。

技術力と知見を活かし、地域の鉄道事業者をサポート



地域鉄道
整備計画の作成や
経済効果などの調査・分析
鉄道事業者などから要請を受けて、構想段階の概略的な
調査や事業化段階の詳細な調査について、公的機関と
して中立な立場で、路線選定、運行・整備計画作成、需要
予測、採算性・社会経済効果分析などを実施しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

— JRTTの「ささえる」SDGs目標 —



もっと便利で快適な交通インフラの実現に向けた さまざまなサポート



地域公共交通・物流 鉄道整備支援

柔軟な資金調達を可能にする 都市鉄道整備や交通・物流DX/GXの推進、中央新幹線等への貸付け

都市鉄道ネットワークの充実や地域公共交通業界・物流業界におけるDX・GXの推進等に対する資金の貸付けを行っています。さらに、中央新幹線(リニア)においても、3兆円規模の貸付けを行っています。



提供: JR北海道

JR経営自立支援

JR北海道、JR四国等の経営基盤強化をサポート

JR北海道、JR四国及びJR貨物の経営自立に向けて、生産性向上に資する設備投資に必要な資金の出資等の支援を行っています。

鉄道整備支援

新線建設や連絡線の整備などをサポート

地下鉄の新線、既存の都市鉄道施設の間を連絡する新線の建設など、都市鉄道の新設・改良事業に対して補助金の交付を行っています。



船舶技術支援

離島航路に最適な船舶の建造をサポート

離島と本土等を結ぶ船舶の建造にあたり、豊富なノウハウと専門的知識を有するJRTTの技術者が、航路、栈橋などの港の施設を調査したうえで、各離島航路に最適な船舶の建造を支援しています。



鉄道整備支援

まちづくりの拠点となる鉄道駅の施設改良などをサポート

ホーム拡幅などの駅改良、バリアフリー施設や生活支援機能施設、観光案内施設などの駅空間の高度化に資する施設の整備に対して補助金の交付を行っています。



船舶技術支援

「内航ラボ」ネットワークを活用し 海運事業者の課題解決をサポート

労働環境改善、環境負荷低減などの内航海運事業者が直面する課題の解決に向け、技術の種を持つ企業と内航海運事業者との橋渡しを行い、先進技術などに関する試行の機会創出につなげます。

まもる

技術力を活かして災害復旧や
中小鉄道、第三セクター鉄道、
内航船舶などの地域の交通インフラを
まもっています。



復旧前



復旧後



三陸鉄道 北リアス線(島越駅)

専門的な知見・ノウハウを活かして 災害などから地域の交通インフラをまもる



地域鉄道

鉄道災害調査隊 (RAIL-FORCE) による被災調査支援

2023年度より被災した鉄道路線の支援のために鉄道
災害調査隊を創設し、国土交通省と連携して早期の
被災調査の支援を行っています。



地域鉄道

被災した路線の 復旧に向けた 工事や技術支援

東日本大震災で被災した三陸鉄道リアス線の工事受託
や南阿蘇鉄道への橋りょう工事の技術指導など災害
復旧に関する技術支援を実施しています。

JRTTの技術で蘇る
第一白川橋りょう



船舶技術支援

船舶就航後も 継続した技術支援

4000隻以上の建造実績に基づくデータや専門的な
知見・ノウハウを有するJRTTの技術者により、船舶
就航後もメンテナンス支援を行っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JRTTの「まもる」SDGs目標

